

中間考査1週間前

勉強を始めよう!

連休が終り、体育大会の準備に熱が入ってきたようですが、3年最初の定期考査が近づいて来ました。ここで少しクールダウン。勉強モードに切り替えましょう。進路と考査の関係の話をします。

推薦入試・学校斡旋就職等希望の人へ

これまでいろいろな機会で「評定平均」の大切さを訴えてきました。学校斡旋の就職(校内選考で好条件)、指定校推薦(推薦基準が設けられている、校内選考で好条件)一部の学校の公募制推薦(評定の点数化、推薦基準が設けられている)などにおいて評定平均は特に重要です。1、2年生までの評定はもはや変えることはできませんが、3年の評定は努力次第でいくらでも変えられます。1学期が評定アップの最後のチャンスです(65点で「4」、80点で「5」)。進路実現の方法として推薦入試や学校斡旋就職を考えている人は、テスト勉強のときに「こんなもんでええかな」というところで勉強を止めてしまわず、しつこく1点、2点にこだわり評定アップにつなげてください。

大学や短大、

医療系の専門学校を希望の人へ

公募制推薦や一般入試で受験しようとする人は、考査で良い点を取るだけでなく、学校のテスト勉強を通じて「しっかりした基礎力」をつけてもらいたいです。これまで、考査直前の数日間や前日だけの勉強で60~70点を得点してきた人がいるかもしれませんが。でも、こんな勉強方法では、基礎力の定着は望めません。「学問に王道なし」というとおり真の学力養成に

は、こつこつと努力するしか方法はありません。しかし、皆さんに与えられている時間には限りがあるので、効率を求めることも大切です。そのひとつとして勤めるのが「学校の勉強=受験勉強」であることを再確認し、授業や考査を最大限に利用することです。考査準備としては、まず学習内容を理解すること。次に問題集を最低2回解くこと。分らなければ先生に質問をして納得いくまで突き詰めること。これだけの事をするには考査1週間前に勉強を始めては遅いぐらいです。時間はかかりますが、しっかりした力がつくことは請け合いです。そして皆さんが目指すべきは80点以上です。なぜでしょう?

入学試験で合格ラインは、正答率7割程度といわれています。また、入試問題の構成は次のようになっています。まず、その学校を受験する受験生のほぼ全員が解答できる問題が6割ほどあります。この部分を落とすと合格は遠のくでしょう。次に、ほとんどの者が解答できない難しい問題が1割弱あります。これは解けるに越したことはないのですが、労力と見返りを考えるとコスパは低いでしょう。そして、残りの3割ほどは、解ける人とそうでない人が生じる問題です。もう分ると思いますが、合否の分かれ目はこの3割の出来・不出来にかかっていると言えます。受験対策はまさにこの部分の勉強が中心です。

では、定期考査との関係はどうでしょう。定期考査で出題される内容はどれも基礎的なものです。つまり、入試問題のなかで「必ず正解しないといけない6割」に含まれる内容です。だから、定期考査で8割以上取れる力が無いと、入試で勝てるはずが無い!ということは明らかです。だからこそ、学校の勉強を大切にしたいのです。

確かに受験勉強は長く、苦しいものです。でもそれを乗り越えたときに得られるものは、何物にも代え難

い人生の宝になるでしょう。

この一年は皆さんの人生において大きな分岐点になるかも知れません。持てる力を出し切って「**必死のパッキリ**」で頑張る価値があると思いませんか。

進学講習を受けよう！

進学を希望し実力養成しようとするならば、進学講習の受講を強く勧めます。以下のように各教科・科目で講習を行う予定です。講習には次のようなメリットと注意点があるので、よく読んで参加を検討してください。

申込用紙は後日配布します。

【開講予定講習一覧】

教科	対象	開講時期	頻度
日本史	難関私大希望者	1学期期末後から	週4回(土日含む)
数学	理系・看護進学希望者	体育祭終了後	週1回

その他、国語・英語・理科も夏期講習を予定

■メリット■

- ① 大切な基礎事項を総復習できる。
- ② 分からないところがあっても質問すればその場で教えてもらえる。
- ③ 入試問題の対策演習ができる。
- ④ 継続して受講することで、勉強していくうえでの「道しるべ」「ペースメーカー」になる。
- ⑤ 同じ目的に向かう仲間と競い合い、支え合える。勉強が楽しくなるかも！？

■注意点・心構え■

- ① 講習を受けるだけで安心してはいけません。習ったことを噛み砕いて自分の血や肉にする作業が必要です。復習と反復練習がここでも大切です。
- ② 講習に参加すれば「魔法のように問題が解ける方法」とか「ここだけを覚えておけば合格するポイント」みたいなものを伝授してもらえんと思ってはいけません。勉強には楽な道や近道はありません。
- ③ すぐにあきらめないこと。粘り強く取り組むことが「合格」を引き寄せます。

ライバルとの差は…1000時間！！

皆さんのこれまでの2年間の家庭学習時間の平均は、平日で約25分、休日で約40分です。他校の受験生と比べると平日は1時間、休日は2時間の差があります。これを計算すると、皆さんは他校の受験生＝ライバルに比べ、約1000時間、学習時間に遅れが生じていることとなります。

センター試験までおよそ240日、この日数で計算すると皆さんは周りの受験生よりも1日4時間以上勉強をしないとこれまでの遅れを取り戻すことができません。

進学講習を受講する、模試を受験する、塾へ通う、様々な方法で学習時間を増やし、受験勉強を重ねている人も多いでしょう。ただし、注意しなければいけないのは勉強した気にならないことです。模試を受けた人の中には「勉強したのに全然ダメだった…」という人もいるでしょう。ただ、これまでの1000時間の差を考えてみたら、それが当たり前です。圧倒的に勉強時間が足りていません。「これまでと比べて…」「周り比べて…」なんて事を言っているようではいつまでたっても結果は出ません。皆さんが戦うのは、1日の学習時間が30分に満たなかったこれまでの自分でも、みどり清朋のクラスメイトでもありません。全国の受験生です。

6月10日(日)の進研マーク模試には約80名、看護・医療系模試には約20名が申し込んでいます。まずはそこで結果が出せるよう、これからの1ヶ月、必死で勉強に取り組んでください。

また、今回の模試を受験しない生徒も8月9日の模試に向けて勉強を進めておくようにしてください。